

「IHI 力」号の発刊にあたって

代表取締役副社長 石 戸 利 典

2016年の株主総会で一人の株主さまから「IHIは内容のあるしっかりした技報を作成し、公開している。是非これが続けてほしい。」との励ましを頂いたことは強く印象に残っています。それは技術というものに真摯^{しんし}に取り組み、近道はないというメッセージでもあったような気がします。

「IHI 力」といって思い浮かべるものの一つに「造船」から始まる IHI 製品の系譜があります。そこで「造船に由来する技術」として主に挙げられているのは、「厚板溶接技術」、「船用主機→回転機械技術」、「配管技術」、「船用機器関連技術」です。IHI グループはこれらの基盤となる差別化技術を大切に、事業を次々に展開 (Transform) してきました。もちろん、品質第一のものづくり技術、お客さま第一の営業力、プログラムマネジメント力などの事業横断の力も磨いて。

一方で 21 世紀になって我々の社会の、そして地球の抱える問題、課題が複雑化し、難しくなってきました。「こういう技術をもっているから（開発したから）こういう事業をやろう」というアプローチではもはや立ち行かなくなっています。

ではどうすればよいのか。その一つのヒントになるのが「Think Backward」という考え方かなと思います。「後ろ向きに考えよ」ではありません。逆転の発想といった方がよいかもしれません。技術・製品開発でいえば、社会のある課題を 10 年後に（時空を飛んで）こう解決し、事業にしてみせると明瞭に描いて、そこから逆に現在・現実まで辿^{たど}ってきて、途中にあるさまざまな障害やチャンスすべて洗い出すというやり方です。お客さまとの関係でも「Think Backward」。開発した製品・サービスを提供するのではなく、お客さまの事業の現場にある問題・課題と一緒に発見し、それをどう解決するか一緒に考え、その解決に向けて IHI グループのサービス・製品をどう変革させるか、技術もどう進化・変革させていくか考えることが必要となります。

本号は IHI グループの製品や技術を多方面から掲載し、グループ全体の技術力を紹介するものですが、「Think Backward」がうまくなされて、お客さまに見事に価値を提供しつつある案件もあります。IHI の長い歴史のなかで先輩方はお客さまと真摯に接する経験、筆舌に尽くしがたい努力を重ね、自然に「Think Backward」の考え方もこなされて IHI グループの基礎を築かれたという思いに至ります。我々も、「前にどんどん進みながら Think Backward」で挑戦を続けましょう。

